申込団体数　団体（Ⅰ地域づくり活動支援コース　8団体　　Ⅱ区テーマ解決支援コース　1団体　Ⅲ地域拠点支援コース　0団体）

Ⅰ　地域づくり活動支援コース

No	団体名	代表者	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	交付額（円）	審査コメント	備考
1	ふぁんプラネット	谷村　夏子	地域・多世代交流コミュニティスペース運営（ワークショップ、マルシェ）	これまで2年間、緑区地域活性化支援事業において、毎月1回「ふぁんてらす」の活動（コミュニティスペースの運営・開催）を継続して実施してきました。また、令和7年6月には古民家を活用し、2回目となる地域マルシェの開催も実現しました。 さらに令和7年度には、新たな取り組みとして、地域の認定こども園や自治会、活性化支援事業の他団体など、多くの地域活動団体とのコラボレーションが実現し、イベントや地域事業の運営・参加につなげることができました。これらの活動を通して、緑区において「ふぁんプラネット／ふぁんてらす」という名称が徐々に認知され始めていることを実感する機会の多い一年となりました。 多くの方々に認知され、楽しんでいただけているという手応えを感じる一方で、「一度訪れて場所を知ったらそれで終わり」となってしまう方も少なくないのではないか、という課題意識も生まれました。地域活動を行う者として、これまでと変わらず、息抜きの場の一つとしてコミュニティスペースの開設やイベント企画を継続していくことが、「また来たい」「あそこに行けばふぁんてらすがある」と思ってもらえることにつながり、結果として継続性のある居場所づくりにつながるものと考えています。 昨年度の事業計画にも記載したとおり、心や日常に不安を抱えている方、周囲とのコミュニケーションが取りづらい方、独居の高齢者、ワンオヤ育児などで疲弊している保護者の方々に向けて、「このような居場所がある」ということを根気強く発信し続けていきます。そして、その方々の暮らしの一助となるような、あたたかく開かれたコミュニティ運営を目指していきたいと考えています。	本事業では、地域住民が気軽に立ち寄ることのできる居場所づくりを目的として、コミュニティスペース「ふぁんてらす」の定期的な運営および、地域と連携したイベントなどを実施します。 具体的には、これまで継続してきたコミュニティスペース開設を引き続き行い、年齢や立場を問わず、多様な地域住民が交流できる場を提供します。利用者が「何度でも訪れたくなる」環境づくりを意識し、季節や地域のニーズに応じた企画を取り入れながら、安心して過ごせる居場所の運営を行います。 また、地域の認定こども園、自治会、地域活動団体等と連携し、イベントや地域事業の共同企画・運営を実施します。 マルシェや体験型イベントなどを通じて、地域資源の活用や世代間交流の促進を図るとともに、地域活動への参加のハードルを下げる役割を担います。 あわせて、心や日常に不安を抱える方、周囲とのコミュニケーションが取りづらい方、独居高齢者、子育て中の保護者など、支援につながりにくい層にも情報が届くように継続的な情報発信を行い、地域における「身近な居場所」としての認知向上を図ります。何かをしていたら世代を超えて関わっていたというコミュニティスペースが、ふぁんてらすの近い将来の理想形です。	千葉市緑区おゆみ野　鎌取コミュニティセンター、 緑区内自治会館など	200,000	・ふぁんてらすの定期的な活動に加え、ワークショップの実施や地域イベントへの参加など、活動の場を着実に広げている点を高く評価します。 ・場の設定を通じてつながった方々が持つスキルを十分に活かしながら、さらなる認知拡大と活動の継続に取り組んでいただくことを期待します。 ・支援につながりにくい方々が、安心してつながりを持てる場所となることを期待します。	【3年目】
2	四季の道 フォーラム	吉田　勇	遊歩道の魅力再発見プロジェクト・パート2	緑区おゆみ野地区は1984年のまちびらきから40年が経過し、近年は人口減少と少子高齢化が進行している。これに伴い、高齢者や子育て世代の孤立、地域活動への参加機会の減少といった課題が顕在化している。また、地域について学ぶ機会の減少により、おゆみ野の豊かな自然や歴史に関する記憶が十分に継承されず、地域への関心や愛着が薄れつつある。さらに、地域で活動する諸団体の活動が個別化し、相互の連携やノウハウ共有が十分に進んでいない状況も見られる。 本事業では、これらの課題を踏まえ、次の解決を目指す。 ①高齢層・子育て世代など、世代を問わない孤立化の解消 ② 地域の魅力再発見による地域愛の醸成 ③ 地域で活動する諸団体のノウハウ共有と連携の促進	おゆみ野地区には、延べ約 24kmに及ぶ遊歩道と、それに連なる公園・緑地が整備されており、地域交流や学びの場として大きな潜在力を有している。本事業では、これらの資源を活用し、地域住民が気軽に外出し、人と出会い、地域を知るきっかけを創出する。 本年度は、過去の事業実績を踏まえ、参加実績および波及効果の高い「さくらさくさくウォークラリー」を中核事業と位置づけるとともに、他の事業については規模や手法を精査しながら実施することで、限られた体制の中でも確実な成果を得ることを目指す。 主な取組内容は以下のとおりである。 ・さくらさくさくウォークラリーの実施（中核事業） ・四季の道に名板をつけよう！（夏の道・冬の道計約200本） ・あらかじめテーマを設定しない「井戸端会議」の開催 ・四季の道の魅力再発見シンポジウムの開催 ・広報誌「四季の道フォーラム通信」の定期発行	緑区おゆみ野地区内の遊歩道および公園	200,000	・「さくらさくさくウォークラリー」を復活させ、計画的かつ着実に取り組まれている点を評価します。 ・シンポジウムについては、専門的な議論の場としての印象が強いことから、地域住民の関心を引くような内容や、SNS等を活用した発信方法についての工夫をご検討ください。 ・持続可能な運営資金の確保に向けた取り組みや、担い手の育成・発掘にも積極的に取り組んでいただくことを期待します。	【2年目】
3	East Café	福井　真一	East Café	緑区あすみが丘東を中心とした地域の多世代交流の場として、居場所作りを行う。特に子供と高齢者の交流がはかれるようなイベントを企画して、互いに関わりが持てる場を提供することを目的としている。	・出入り自由のカフェ（多世代交流の場） ・古本交換会 ・ゲームカフェ ・ミニお祭	・あすみが丘プラザ ・あすみが丘東自治会館	200,000	・地域の多世代間交流のきっかけづくりとなる取り組みであると評価します。□ ・子どもと高齢者の交流という目的が今後さらに深まり、より幅広い世代が参加・交流できるようなイベントの企画を期待します。	【新規】
4	大木戸台シニア支援の会	宍倉　明	ふれあい喫茶虹	・バス路線が廃止となり、車を持たない高齢者が気軽に出かける事が難しくなった。 ・男性ボランティアの高齢化により、庭作業を事業とする事が難しくなる事が予測される。 ・歩いて行ける大木戸第一公園集会所を利用して近所の方々との交流や講習の場となる「ふれあい喫茶虹」で、気軽に楽しい時間を提供する。	・淹れたてコーヒーおかわり自由 ・芸能鑑賞および講習会	大木戸台団地（大木戸第一公園集会所）	100,000	・特定の方に限定されることなく、多様な世代の方々が気軽に立ち寄れる開かれた場となるような運営をお願いします。 ・運営に若い世代の方々も参画いただけるような工夫や、暮らしに役立つ情報が得られる取り組みなど、より持続可能な活動となることを期待します。 ・プロジェクターおよびスクリーンについては、利用目的が具体的でなく、また使用場面も限定的であると判断したため交付対象外とし、交付予定額は、申請額から購入費相当額を除いた100,000円とします。 ・継続的な運営のために、経費の縮減と今後の資金調達を検討してください。	【新規】
5	特定非営利 活動法人リンク	吉井　稔	子ども～大人までみんなが交流できる“緑日”を通じた地域づくり	1. 地域共生社会推進のため、世代・分野を越えた交流の機会を創ることで、世代間の相互交流・相互支援を促進する。また、①望まない孤立・孤独の防止、②不登校・ひきこもり者等の社会とのかかわりのきっかけ、③高齢者等のフレイル予防等を行う。 2. 現在の制度は分野別で分かれ、建物や制度利用の対象が限定されることが多い。活動を共に行うことで、地域の機関・団体の水平的連携を図り、地域連携強化に取り組む。	住み慣れた地域に、「緑日」という“ハレの日”を創り、多世代共通の、誰もが親しみのある 屋台メニューや遊びを提供する。 また、居場所・ネットワークづくり活動「ホッとステーション」の（居）場所を活用することで、地域づくりを促進する。 方　　法：移動式の緑日風ちいき食堂（子ども食堂）の開催 回　　数：年3回程度 活動地域：土気地区・誉田地区・鎌取地区・その他 場　　所：実施地域内の保健・福祉・教育協同機関の建物又は駐車場 内　　容：（1）緑日メニュー（食）の提供 （わたあめ・ポップコーン・かき氷・焼き芋　他） （2）ガチャガチャ・輪投げ・ビンゴ大会・その他 （3）その他 その他　：（1）実施場所又は近隣の各種団体と連携し実施する。 （2）健康・生活相談の要素を入れることで、不安や悩み を抱える方への支援に結びつける。	土気地区・誉田地区・鎌取地区・その他 実施地域内の保健・福祉・教育協同機関の建物又は駐車場 （候補場所：今後検討及び打診予定） 実施場所・地域 土気：おてんとさん、パワーアップステーションひまわり 誉田：ほんだくらぶ、TOKOYA 鎌取：サードスペースみらい、かない内科 NPO法人ウェルネスライフパートナーズ 他	200,000	・子どもから高齢者まで、さまざまな生きづらさを抱える人を支える場づくりとして、横のつながりや寄り添いを重視した取り組みである点を評価します。 ・専門的知見を生かした継続的な取り組みになるよう、基盤づくりや、他団体との連携強化を期待します。	【新規】
6	つむぐとけ	米澤　美紀	人と森　／ ちいさな人と森	個人主義や核家族が進んだいま、地域の人と人のつながりが薄くなり、様々な弊害がおこっています。育児を1人で抱えて悲鳴をあげるママさんがいなくなるよう、子ども達が画面に向かうだけで時間を費やしてしまうことのないよう、ご高齢の方が孤独に暮らすことがないよう、ゆるやかな繋がりを生み出したいと考えます。 安心感を持って楽しく暮らせる街になることを願い、人と人とがつながる仕掛けづくりをして行きます。	毎月1回、「人と森」というマルシェを開催 ・美味しいものを食べたりワークショップを体験したりできる機会を提供 ・お客さん同士でコミュニケーションをとったり、ボランティアとして運営をしたりすることで地域とのつながりを得る ・子どもがお店番をしたり、出店したりする体験を提供 ・好きなことを披露できる場を提供 平日の「ちいさな人と森」 ・子どもたちをメインとした多世代の居場所作り ・夏にはかき氷、冬にはお汁粉を食べたりしながら、昔遊びやボードゲームなどを楽しめる場づくりをします ・子どもを見守る大人も楽しさを感じられるような仕組みを考えています。	あすみが丘ふれあいの広場公園	200,000	・「人と森」事業を通じて地域につながりが生まれ、新たな活動が立ち上がっている点を評価します。 ・学校でも家庭でもない第三の居場所としての「ちいさな人と森」が果たす役割にも期待します。 ・補助終了後を見据え、事業の継続・発展に向けた体制整備などを進めてください。	【2年目】
7	越智はなみずき台 自治会	奥埜　計造 飯泉　亜希枝	「つながる・おちつく」プロジェクト	越智地域の中核である「越智はなみずき台団地」は、スーパーの撤退を機に生活利便性が低下し、少子高齢化が顕著な課題となっています。一方で、文部科学大臣賞を受賞した防犯パトロールに象徴されるよう、住民の自治意識は極めて高く、多様なサークル活動が展開されています。 しかし、近年の少子化の影響により、各組織の持続可能性が危ぶまれているのが現状です。そこで本事業では、ホームページ制作および広報紙の発行を軸に、地域の諸活動を可視化します。情報発信を通じて多世代間の「つながり」を再構築し、特に高齢者と若者世代の交流を促進することで、持続可能な地域社会の実現を目指します。	つながり可視化プロジェクト 【第1四半期：準備と基盤作り】（4月～6月） ・自治会と越智の会の合同会議。役割分担の最終確認。・HPのドメイン取得、構成案の確定。 ・自治会情報の整理（規約、ゴミ出し、防災等）。・取材対象のリストアップ、アポイント開始。 ・身近なサークル数件をモデルに試験的に取材・執筆。・HPの操作マニュアル整備。 【第2四半期：コンテンツ制作とイベント実施】（7月～9月） ・自治会HPオープン。・商店街店舗の紹介記事を順次公開。 ・空き店舗を活用したイベント実施。・サークル代表者への公開インタビューと写真撮影。 ・夏休み期間を活用し、子どもたちにも見学を促す。 ・イベントの様子を動画やレポート記事としてHP掲載。 【第3四半期：地域への浸透と多世代交流】（10月～12月） ・地域の店舗や歴史に詳しい方へのインタビュー。・地域の秋祭り等と連動した情報発信。 ・テーマを変えて実施（例：商店街の歴史など）。・HPのアクセス状況を住民にフィードバック。 ・HPの人気記事を選定。・ネットを見ない層向けのレイアウト作成（自治会・越智の会 共同作業）。 【第4四半期：集大成と次年度への継続】（1月～3月） ・「HPを紙にしました」という形式で全世帯へ配布。・紙面から HPへの誘導（QRコード掲載）を強化。 ・HP や紙面を見た感想を収集。・サークル新規参加者や、商店街への来店増等の効果測定。 ・「越智の会」の活動報告。・活動を継続するための体制見直し（新メンバー公募）。	越智はなみずき台団地と、その周辺（靴下団地跡の朝日ヶ丘団地や農家の多い越智地域を含む）	200,000	・高齢化率の高い地域において、住民主体で商店街の活性化や賑わい創出に力強く取り組もうとする意欲が感じられ、提案内容にも話題性や注目度があり評価します。 ・この事業が継続した取り組みとなり、広がりあるものとなることを期待します。 ・自治会会計との区分や運営体制の整理をお願いします。	【新規】
8	おゆみっこの家	船田　伸枝	おゆみっこの家	長期休暇に一人で家にいる子どもたちの居場所作り。 地域の大人たちと子どもたちのコミュニケーションを作る場。	宿題の補助 レクリエーション活動 居場所作り	千葉市立おゆみ野南小学校内・おゆみ野地区全域の小中学校	200,000	・子どもたちが不安定になりやすい長期休暇終盤の時期に、交流や学習の機会を提供し、精神的な安定や生活リズムの回復につなげている点を評価します。 ・負担が個人に偏らないよう、多様な方に協力を得ながら、無理なく運営が続けられる体制づくりを期待します。	【2年目】
							1,500,000		

Ⅱ　区テーマ解決支援コース

No	団体名	代表者	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	交付額（円）	審査コメント	備考
9	ハイジ＆どらごん	宮崎　令子	学習支援とこども食堂	穏やかに見える地域ですが、民生委員の活動や社協の活動の中で、この地域の家庭・こどもの問題を見聞きする機会に触れ、勉強したくても環境が整わない子、孤食の子、貧困、虐待、働くお母さんの疲労などを少しでも減らすために自分たちでできることを考えました。 地域のこどもが気軽に行ける居場所づくり、地域のいろいろな世代のつながりに貢献していきます。 どらごんが学習支援、ハイジがこども食堂です。	（どらごん） 毎月第1・2・4木曜日　鎌取コミュニティーセンター会議室で学習サポートを開催。 17：00～20：00※小学生は18：00まで （ハイジ） 毎月第3木曜日　おゆみ野公民館調理室でこども食堂を開催。 17：00～19：00	鎌取コミュニティーセンター おゆみ野公民館調理室	236,000	・地域課題である子どもたちの居場所づくりに取り組まれ、子どもが気軽に立ち寄れる場として機能していることに加え、多世代のつながりを生み出している点を高く評価します。 ・活動継続のため、スタッフ確保や資金調達の方法について検討を進めていただき、将来的に安定的に事業が継続できる仕組みの構築を期待します。 ・周辺の農家や市民農園利用者、事業者など協力者の輪を広げることで、食材確保や地域連携の強化につながると考えられます。	【2年目】
							236,000		